これらの施策の検討に当たっては，スポーツを通じた健康増進や共生社会の実現，経済・地域の活性化など関係省庁との関わりが特に深い施策について，スポーツ基本法第 30 条の規定に基づくスポーツ推進会議において関係省庁との連絡調整を行った。

なお，第２期計画の達成状況の検証が事後に適切に行えるよう，第３章においては，具体的施策の実施主体と取組内容を明示しつつ，できる限り成果指標を設定することとし，特に数値を用いた成果指標の数は８から 20 に増加させた。

３　第２期スポーツ基本計画が目指すもの

スポーツ基本計画は，国の施策を中心に国が定めるものであるが，あくまでもスポーツの主役は国民であり，また，国民に直接スポーツの機会を提供するスポーツ団体等である。

スポーツの価値は，国民や団体の活動を通じて実現されるものであり，第２期計画に掲げられた施策は，国や地方公共団体がこれらの活動を支援し，スポーツの価値が最大限発揮されるためのものであることに留意する必要がある。

このことを踏まえ，第２期計画が指針となり，国民，スポーツ団体，民間事業者，地方公共団体，国等が一体となってスポーツ立国を実現できるよう，国が責任を持って取り組むとともに，以下の点を期待する。

国民には，第２章に示した「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で積極的にスポーツに参画し，スポーツを楽しみ，喜びを得ることで，それぞれの人生を生き生きとしたものとすることを期待する。

スポーツ団体等には，第２章に示したスポーツの価値を改めて確認した上で，国民やアスリートのニーズを的確に受け止め，第３章に掲げた施策を有効に活用して，魅力的なスポーツ環境の創出に努めるとともに，スポーツの価値が社会の変革や未来の創造に十分活かされるよう，スポーツ以外の分野との連携・協働にも積極的に取り組むことを期待する。

地方公共団体には，国民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため，第２期計画を参酌してできる限りすみやかに地方スポーツ推進計画を改定・策定し，地域の特性や現場のニーズに応じたスポーツの施策を主体的に実施するとともに，スポーツを通じた健康増進，共生社会の実現や経済・地域の活性化など，スポーツを通じた活力ある社会づくりに関係部局・団体が一体となって取り組むことを期待する。

第２章　中長期的なスポーツ政策の基本方針

～スポーツが変える。未来を創る。 Enjoy Sports, Enjoy Life ～

スポーツは「世界共通の人類の文化」であり，国民の成熟した文化としてスポーツを一層根付かせ豊かな未来を創ることが，スポーツ振興に携わる者の最大の使命である。

スポーツの「楽しさ」「喜び」こそがスポーツの価値の中核であり，全ての人々が自発的にスポーツに取り組み自己実現を図り，スポーツの力で輝くことにより，前向きで活力ある社会と，絆の強い世界を創る。

１　スポーツで「人生」が変わる！

スポーツは「みんなのもの」であり，スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで全ての人々がスポーツに関わっていく。

（１）スポーツを「する」ことで，スポーツの価値が最大限享受できる。

スポーツは，体を動かすという人間の本源的な欲求に応え，精神的充足をもたらすものである。

スポーツ基本法において，スポーツは「心身の健全な発達，健康及び体力の保持増進，精神的な充足感の獲得，自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く捉えられており，「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは，全ての人々の権利」であるとされている。

スポーツには，競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するものや，健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがある。例えば散歩やダンス・健康体操，ハイキング・サイクリングもスポーツ[*1]として捉えられる。

このように，スポーツは文化としての身体活動を意味する広い概念であり，各人の適性や関心に応じて行うことができ，一部の人のものではなく**「みんなのもの」**である。

スポーツを「する」ことでみんなが**「楽しさ」「喜び」**を得られ，これがスポーツの価値の中核である。さらに，継続してスポーツを「する」ことで，勇気，自尊心，友情などの価値を実感するとともに，自らも成長し，心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現していくことができる。

（２）スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでみんながスポーツの価値を享受できる。

スポーツへの関わり方としては，スポーツを「する」ことだけでなく「みる」「ささえる」ことも含まれる。

[*1] スポーツには，オリンピック・パラリンピック競技種目のようなものだけでなく，野外活動やスポーツ・レクリエーション活動も含まれる。また，新たなルールやスタイルで行うニュースポーツも注目されるようになってきている。